

第26回 市民参加懇談会コアメンバー会議
ー市民参加による政策検討会議ー
議事録

1. 日 時：平成19年3月30日（金） 13：00～15：00
2. 場 所：中央合同庁舎第4号館11階 共用第1特別会議室
3. 出席者：碧海委員、浅田委員、新井委員、出光委員、井上委員
岡本委員、小川委員、小沢委員、東嶋委員、中村委員、吉岡委員
（原子力委員会）近藤委員長、田中委員長代理、松田委員、伊藤委員
（内閣府）黒木参事官、牧野企画官、西田補佐
4. 議 題：1. 「市民参加懇談会 in 松江」の開催結果について
2. その他
5. 配付資料
資料市懇第26-1-1号 「市民参加懇談会 in 松江」の概要
資料市懇第26-1-2号 「市民参加懇談会 in 松江」のアンケート結果
資料市懇第26-2号 「市民参加懇談会 in 松江」で頂いた御意見等の整理
資料市懇第26-3号 市民参加懇談会 in 松江 議事録
資料市懇第26-4号 第25回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

○近藤原子力委員長 第26回の市民参加懇談会コアメンバーの会議を開催しましたところ多数の方にお集まり頂きましてありがとうございます。

木元座長が原子力委員を退任されたことに伴い、座長が空席になっていますが、とりあえずは、私が座長になって進行させていただくことにしますので、よろしくお願いします。

それではまず、配布資料の確認をお願いします。

○西田補佐 それでは資料のご確認をさせていただきます。まず、資料第26-1-1号といたしまして、「市民参加懇談会in松江」の概要。それから、資料第26-1-2号「市民参加懇談会in松江」のアンケート結果、また、資料第26-2号といたしまして、「市民参加懇談会in松江」に頂いた御意見の整理という資料の3点、以上配らせて頂いてございます。

以上でございます。

○近藤原子力委員長 よろしゅうございますか。はい、ありがとうございました。

さて、そうですね。原子力委員の顔ぶれが変わっていますので、ご紹介します。そちらにいらっしゃるのは松田委員です。

○松田原子力委員 よろしくをお願いします。

○伊藤原子力委員 伊藤でございます。よろしくお願いいたします。

○田中原子力委員長代理 田中でございます。よろしくどうぞ。

○近藤原子力委員長 田中委員には委員長代理をお願いしています。

○西田補佐 広瀬委員は今日のご欠席です。

○近藤原子力委員長 広瀬委員は非常勤です。大学の現役教授であられ、しかもいくつかの大学において講義をされていて、定例会議以外の会議にはなかなかご出席できないということで、本日はご欠席です。

さて、今日の主たる議事は「市民参加懇談会in松江」について、その開催結果をご報告、アンケートの集計も終わっていますので、その内容についてご紹介頂いて、市民参加懇談会としてのとりまとめを行うことですので、宜しくお願いします。まず、資料の説明をどうぞ。

○西田補佐 それでは、資料の方のご説明をさせていただきます。まず、資料第26-1-1号でございます。「市民参加懇談会in松江」の概要ということでございます。昨年12月6日でございますけれども、松江市の松江テルサの方で開催させて頂きました。

御意見の発表者ということでございますが、地元等から7名ご参加頂きました。また、市民参加懇談会コアメンバーの先生方8名プラス木元座長にご参加頂きました。

概要でございますけれども、ご参加頂きました7名の発言者からそれぞれ御意見を伺いまして、市民参加懇談会コアメンバーの質疑を約2時間行いました。また、第2部といたしまして参加者の方々から挙手を頂いた上で5名の方々のご発言頂きましたが、御意見を頂くとともに、市民参加懇談会のコアメ

ンバーの方々を交えまして活発な意見交換が約1時間行われたところでございます。

話の中身の概要でございますけれども、次の2ページ目の方に移らせて頂きまして、広聴・広報関係の発表者からの御意見でございます、原子力発電所の立地自治体ではたくさん情報が入るが、全体の中での体系的な位置付けがわかりにくいというような御意見。

3番でございますが、自分が知りたい情報しか知ろうとしないという人間の特性を踏まえてあらゆる角度から公平な情報提供が必要。今回のような会合は知りたくない情報を知る機会ともなる。市民参加懇談会の機会の充実が必要というような御意見がございました。

また、知りたいと思うときにその情報が公開されていることが大事であって、そのためにも具体的に正確な情報公開が重要というような御意見もございました。

7番でございますけれども、アンケート調査をしたという方がいらっしやいまして、3,000名に対するアンケート結果では避難方法を知らないという方が80%、プルサーマル計画を知っている方は72%いるが、71%の方が内容について知らないと回答したというようなアンケート結果のご紹介もございました。

また、3ページの方でございますけれども、日本では原子力に関し日常的なコミュニケーションやリスクと便益を踏まえた普通のコミュニケーションがうまくできていないというようなご指摘もございました。

また、原子力発電所の建設に伴う雇用の拡大など、地域経済への波及効果について期待しているし、知りたいというような御発言もございました。

その後の意見交換でございますが、原子力について知りたくないと思われても知ってもらわなくては困る情報もあるが、どうしたらよいかということにつきましては、意見の中で必要性を自ら認識し、情報を自分で求めるようにすべき。良い知識も自ら獲得して初めて知力になる。体験などを語り合う場を、市民活動の中で広げていくべきというようなご発言がございました。

また、原子力の基本的な情報についてアンケート調査を行ってはどうかと提案があったが、その対象と、その結果の使途は何かというような御意見に関しまして、一般の方々がいかに原子力を知らないかということをアンケート調査の結果として公表することで新たな関心を持つ人が増えるのではないかなというような御意見。また、良い環境を残すために、現代の快適な暮らしを変えるべきというご指摘がある一方で、二酸化炭素の排出量を日本が議長国としてまとめた以上、日本だけでも二酸化炭素排出削減を守るべき。そのためにも原子力の推進が必要というような御意見がございました。

次に4ページの教育関係でございますが、子どもたちに教育現場を通じて正確な情報を提供すれば、もっと正確に認識していろいろな議論の土壌ができるのではないかなというような御発言がございました。

また、当日は原子力防災につきましていろいろとご議論がございました。先日自治体の担当者にヨ

ウ素剤の副作用について質問したが知らなかった。自治体は医療関係者ではなく説明できないのが問題。

それから、事故が起きたとき最初に大事なのは、事故が起きたことを知ること。そして、すぐ避難することではないか。松江市の現状では知ることができないというような御意見がございました。

また、その後の意見交換で、ヨウ素剤をどのように飲むのか、日本ではどのように教えるのかというようなご指摘がございました。それにつきまして、原子力発電所がある自治体ではヨウ素剤に関する知識を持った医師が求められるが、放射線について体系化した知識を持つ医師は少ない。

また、体系化するためには教育が必要である。原子力工学科がなくなったが、大学の専門課程における高等教育を持続させる必要があるというような御意見もございました。

また、原子力防災につきましては防災体制をつくるときに具体的なことを知りたいと思う市民の方々も一緒に参加するべきというようなご指摘もございました。

また、その他でございますけれども、発表者からの御意見の中で、松江市の市町村合併で旧鹿島町が合併に参加したのは30年来の原子力発電所との共存共栄を前提とした町作りを継承するというところに合意が得られたことが最大の要因だと思うというようなご指摘もございました。

また、第2部での主な発言と意見交換でございますけれども、原子力発電所の危険範囲について、なぜ10キロで地域制限をしたのかというようなご質問もございました。

また、市民参加懇談会につきましては定期的に開催してほしいというご要望もございました。

また、原子力安全委員会の方の意見でございますけれども、耐震の審査の基準となる過去の地震の基準点について、関係文献に誤りがあるのではないかとというようなことのご指摘もございました。

次に、6ページの方でございますけれども。事業者は出したくない情報、都合の悪い情報は出さないため、内部告発に頼らなければ事業者の都合の悪い情報を入手できないというようなご指摘もございました。それに対しまして、内部的な情報を告知した人を保護する法律もできており、ある程度の対応はできているとご認識頂きたいというような回答もございました。

また、チェルノブイリの関係に関しまして、甲状腺の被ばくの80%は汚染された牛乳が原因であったと。汚染牛乳の出荷、流通を停止すればもっと甲状腺がんの発生は抑えられたのではないかとというようなご指摘もございました。

また、原子力については怖いと言われ、話を表立ってできない。松江市に32年間住んでいるが、事業者から安全を含め正確な知識が得られていない。正確な情報を共有するための機会を持つことが難しいというようなご指摘もございました。

またその他でございますけれども、昔の高校の教科書の中に日本の発電量は原発をすべて止めても十分賄えると出ていたというようなご指摘もありましたが、これにつきましては現在日本全体で総発電量の35%近くは原子力。2030年以降も30%～40%程度以上は占めるとしているというよ

うなご説明もございました。

また、将来総発電量の30%を原子力で維持しようとするのであれば、大学に原子力という看板をかけるべきというようなご指摘もございました。これに対しまして原子力工学科という名前はなくなったのではなくて、いろいろな分野で活躍できる卒業生を出せるよう名称等の工夫をしたもので、引き続き原子力の専門教育を行っているというようなご回答もございました。

全体でございますけれども、原子力防災、特にこのご発言がかなり出まして、県の原子力防災課の方もいらっしゃったということがございまして、休み時間に県の方からご説明をされてはいかがかというような話もちよっと持っていったんですが。実は松江市の方はもともと隣接自治体であったものが市町村合併で立地自治体になったということがあって、そこら辺の説明は松江市では十分にまだできていない、体制が整備されていないというご説明をされまして、この場ではちょっと、そこら辺をきちんとやった上で説明するので、この場での説明はちょっと控えたいという形でご辞退された経緯がございます。

ということで、ここの松江市でかなり防災が問題になりましたのはそういった途中過程の状況のものもあったのかなというふうに考えてございます。

一応説明の松江の概要は以上でございます。

それから、アンケート調査が資料第26-1-2号の方でございます。これは当日参加された方々からアンケートをまとめたものでございます。アンケート調査結果でございますけれども、内容、雰囲気について「だいたい満足した」、「満足した」、「大変満足した」という方々を含めると全体8割近く、79%程度のご回答を頂いておりまして、参加された方は大体満足されたという非常に高い評価を頂いてございます。

その理由について、「大変満足した」という御意見の中では、国、県、市が開催するシンポジウムは、原子力賛成の立場で議論されている一方、新聞その他のジャーナリストの文書は反対の立場で議論されている。そのため、双方の意見が聞ける本懇談会は、非常に有意義であったというような理由がございました。

また、「満足した」というところでは、松江市に原子力がありながら、積極的に考えたことはなく、良いきっかけになったため。また、多様な意見に対して、座長の率直な回答ぶりが印象でしたというような理由もございました。

次に、2ページですけれども、思ったことを率直に言う人がいて、形式的だけで開かれたものとは思わなかった。参考になり、良かったというような御意見もございました。

また、「だいたい満足した」という中では、賛成か反対ではなく、原子力に対し思いを率直に言える場が持たれたことが良かった。最終的に出された意見が反映できるかが大切だと思います、という理由。また、自分の考えていない意見と違った考え方を聞くことができ、参考になった、というよう

な理由もございました。

また、3ページでございますけれども、用意されたシナリオがない自由な意見交換であった。また、地元の発言者をどのようにして選任されているかわかりませんが、発言が一様であった。もう少し賛否の両極の話があった方が参考になったと思うというようなご指摘も来ております。

また、「ふつう」と答えた方の中では、その人により見る角度が違っていたと思います。でも、皆様の意見がとても良くわかり、参考になりました、というような御意見もございました。

また、「あまり満足しなかった」という回答でございますけれども、それにつきましては活断層やプルサーマル等について質疑がなされていることは想定できたはずなのに、それに正面から回答できる人間が参加していない。話の核心をそらすようなやりとりがあったというようなご指摘も出ております。

続きまして4ページでございます。本日の市民参加懇談会の開催時間についてということでございますけれども、最も多いのは「適当だった」というのが4割でございますけれども、「やや長かった」、「長かった」、「非常に長かった」と少し長いと思われる方が5割以上いらっしゃいました。

また、今後の市民参加懇談会の活動についてあなたはどのように思われますかということにつきましては、「まあまあ期待している」、「期待している」、「大いに期待している」方々を全部含めると86.3%という形で、大部分の方が今後の活動にも期待をされているということでございます。

また、本日の「市民参加懇談会 in 松江」の開催を何でお知りになりましたかということにつきましては、「原子力委員会ホームページ」、「新聞報道」もでございますけれども、最も多いのは「友人・知人から」というのが約4割近くきてございます。

また最後、本日の「市民参加懇談会 in 松江」であなたにとって興味深かった意見やその他お気づきの点ということにつきましては、原子力の必要性については日頃から理解しているつもりだったが、本日出席して感じたのはまだまだ知識が浅いと思う。したがって、このような懇談会をもっと頻繁に開催すれば広報活動の中で大いに役立つというような御意見。

また、放射能のことがよくわかり、基本的な情報がよく聞き取れてわかったというようなことも書かれてございます。

また、5ページの最後ですけれども、この会の御意見等を原子力委員会に報告・提案するのが目的との事ですが、具体的にどのような提案がなされるのか不明ですと。本日の配布資料の中に入れるべきではというようなご指摘もございました。

続きまして、6ページでは、もっと多くの方に参加してもらえる方法、時間帯、事前PR等について工夫して頂きたいというようなご指摘もございました。

また、6ページ真ん中ほどにございますけれども、平日の夕方開催は参加しにくい。もともと難しいテーマの会であるので、参加し易い工夫が必要であると思うというようなご指摘もございました。

また、原子力防災について話が多く出ましたが、避難、防護についての話は有意義でした。「知りたいこと」は原子力発電の安全性、危険性、重要性ではないでしょうか。賛成派と反対派で議論を交わしてもらう方が見ていてわかり易いというようなご指摘もございました。

続きまして、7ページの方でございますけれども、放射線等について自分の無知を知らされた。原子力に関する正しい知識を正しく理解していくことの重要性を痛感した。そのためにも行政、事業者による積極的な広報活動を求むというようなご指摘もございます。

また、その他でございますけれども、CO₂対策、資源確保が現実的なものだととして迫ってきつつあると思う。責任ある国として姿勢を見続けてほしい。

またその下でございますけれども、電源立地交付金の制度に問題があると思います。その理由は、利益誘導のような感じがしてならない。エネルギーは何にも交付金を出さなくても国民全体に関わるものだから必要ないと思いますというようなご指摘もございました。

また7ページ下の方ですけれども、環境問題に対応するためにもっと現実的な議論をすべき。エアコンを使わないで対応が可能だとするような意見があまりにも大きすぎるというような御意見がございました。エネルギー政策の根幹をなす原子力開発については、民間事業者任せではなく、国策としてもっと国が関与すべきというようなご指摘もございました。

最後、参加して頂いた方の構成でございますけれども、性別は男性が94.3%とほとんどでございました。年齢につきましては40代～50代が最も75%で多く、次いで60代以上、20～30代というのがそれぞれ均衡したというような形の構成になってございます。

続きまして、今回頂いた意見に対する意見の整理と対応の案でございます。資料第26－2号の方で用意させて頂いています。御意見につきましては、広聴・広報、教育、そして原子力防災、そして原子力発電に関することということで大きく4つに御意見の方をまとめさせて頂きました。それぞれにつきまして対応を右側の欄の方にまとめさせて頂いております。

まず、広聴・広報の方でございますけれども、大綱では「広聴・広報の充実」の章に原子力の研究、開発及び利用に関しての国民や地域社会との相互理解を図る活動の必要性について示しております。また、「安全確保のための活動に係るコミュニケーション」についても、国、事業者等のリスクコミュニケーション活動の責任について示しております。原子力委員会としてはこれらを踏まえ、正確でわかりやすく、受け手のニーズに配慮した説明に努めることが必要であると考えており、御意見を関係機関に伝えます。また、今後とも市民参加懇談会等の開催を通じて、国民が求める情報をわかりやすく提供できるように努めてまいります、というふうにまとめさせて頂きました。

次に、教育の方でございますが。大綱では「学習機会の整備・充実」の章に放射線や原子力を含めたエネルギー問題に関する指導の充実等を示しております。また「人材の育成・確保」の章に大学における原子力基礎教育や原子力分野においての人材を育成する専門教育の実施を示しております。原

子力委員会としては、エネルギー・原子力に関する教育支援制度の充実や、様々な手段で原子力に関する学習機会を提供することが重要と考えており、御意見を関係機関にお伝えします、というふうにまとめさせて頂いております。

原子力防災でございますけれども、大綱では「原子力防災」について、周辺住民に対する知識の普及、オフサイトセンターの整備・充実や原子力防災訓練の実施等について示しております。原子力委員会としては、こうした活動が危機管理能力の向上や住民とのリスクコミュニケーションに極めて有効と考えており、御意見を関係機関に伝えます、というふうにまとめさせて頂きました。

また、原子力発電の方につきましては、大綱では「原子力利用の着実な推進」の章において、原子力発電がエネルギー安定供給及び地球温暖化対策に貢献していくため、2030年以降も総発電電力量の30～40%の水準を目指すことが適切としています。原子力委員会としては、これを踏まえ、正確でわかりやすく、受け手のニーズに配慮した説明に努めることが必要であると考えており、御意見を関係機関に伝えます、というふうにまとめさせて頂いております。

一応資料の説明は以上でございます。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

資料2はこういう対応をとると書いているのですが、これは原子力委員会の対応です。これは、こういうご意見に対応せよという市民懇の総括を受けて委員会が書くところをお示ししていると、そのようにご理解をいただくべきものです。全体として、こんなとりまとめでよろしいでしょうか。御意見をちょうだいできればと思います。よろしくお願いします。

たしか私が中村さんに振られて、最後に大学の原子力工学科のことについて長演説をした記憶がありますけれども。

○中村委員 はい、さようでございます。

○近藤原子力委員長 それもこのアンケートでほめてくださっている方がいるのを見て、ほっとしています。そんなことではしょうがないけれども。

はい、中村さん、どうぞ。

○中村委員 近藤委員長があれだけおしゃべりになるのは大変珍しい、インパクトがあったと思います。コーディネーターとしては事務方がベルを鳴らすのを忘れましたと言ってエクスキューズした次第でございます。

大分前だったのでもう記憶があまり定かではないところがあるんですが。今ご報告頂いたように、松江市というのは町村合併によって立地市になった。しかも県庁所在地唯一の立地都市であるという特殊性があつて。夏に出光先生なんかとご一緒にプルサーマルのシンポジウムをやったという経験も踏まえて、ここにも議事録ありますけれども、札幌が終った後松江をどうするかという話については、特に私と出光委員は数カ月前の経験も踏まえて提案をしながらやったという次第でしたけれども。

そのあたり、報告にもありましたように、まだ市民の皆さんの認識にも相当バランスの違いがある。「知りたい情報は届いていますか」というテーマでやったわけですが、それだけに知りたいと思われる情報にも相当バランスの違いがあるというあたりは実感しました。

それと、原子力防災についてあれだけいろいろな角度でご発言があったというのはなかなか珍しいケースで、特に地震の問題がありますのでそのあたり関心がそちらに集まっていたのかなという印象は持ちました。いろいろな立場の方がいろいろな角度からご発言されて、そういう点では私たちも興味深く聞けた部分があります。

やはり地元、行政との関係というのがなかなか、原子力防災との絡みで考えてもなかなか難しいところがあるんだなというのは、また新たな発見として考えたような次第です。

これはちょっと別な話になりますけれども、やはり原子力に関する情報というのは一般市民の皆さんに広く伝えることも大切ですが、ターゲットの1つとしてやはり行政、地方の職員の皆さんにもっともっと原子力を知って頂くということが、別に松江だけのことじゃないんですけれども、これからとても大事になってくるのかなというのが、松江をきっかけにして最近私が考えていることです。

それと、高田純さんを発言者にお呼びして、チェルノブイリを初め世界各地の被ばくを研究されている方で、フィールドワークされている方なので、高田さんをお呼びしたのはそういった点では良かったかなと。途中ちょっと延々と報告が長くなった部分はコーディネーターの責任なんですけれども。

雑駁ですけれども、そんな印象を持って終わりました。そのあたりがご報告するポイントかなというふうに感じております。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

ご意見のうち、自治体職員の学習機会を整備するべきという点については、立地市町村の皆さんは大体勉強しておられるように思うのですが。

○中村委員 松江の場合は。

○近藤原子力委員長 松江の場合は、合併で立地自治体になったという事情があるからですね。

○中村委員 ただ、一般論としてもですね、立地市町村は確かに熱心なんですけれども、特に消費地あるいはその周辺の市町村というのが、はっきり言って幾つか実は取材した経験もあるんですが、やはり原子力政策というのは市町村レベルの仕事ではないという、国の仕事だという意識がやはり強すぎて。ただ片方で、例えば地方都市の主婦の方がまずいろいろなことの情報ってどこから得ますかという中に、メディアとは別に行政の広報誌というのがあるんですよね。ここに地球環境を含めた原子力あるいは日本のエネルギーということが書かれる例というのは非常に少ない。そういうことも背景にした僕の発言です。

○近藤原子力委員長 それは重要なポイントですね。ありがとうございます。

原子力委員会も先日原子力白書を作ってどこへ送るかという議論をして、従来は立地自治体ということだったのですが、今回は都道府県には全部送ることにしたのです。全市町村に送ったらと思ったのですが、2,000もあるし、他の白書との並びの問題も出てくると。2,000ぐらいどうってことないじゃないかと言ってるんですけども、私どもまだ整理が必要な部分もあります。

ありがとうございました。

順番でいきましょうか。東嶋さん。

○東嶋委員 松江では市民の方からいろいろなお立場の方がいらっしゃったので率直な御意見が伺えたことが一番よかったのではないかと思います。それで、今防災の話も出ましたけれども、高田先生が、説明を詳しくされました。その後高田先生が、ご存じの方もいらっしゃると思いますけれども、この医療科学社から「お母さんのための放射線防護知識」というご本を出されて、この中に「市民参加懇談会 in 松江」での不安の発言をきっかけにこの本をつくりましたなんていうことが書かれておまして。こんなふうに発展して頂いて良かったなと思ったんです。

確かにあの松江での議論を拝見していますと、やはり、原子力発電あるいはプルサーマルとか様々なことに興味を持つきっかけがやはり不安からだと思うんですね。まずは事が起こったときにどうしたらいいか知りたい。そして、事が起こったとしても大丈夫であるということをしちゃんと説明することによって原子力発電の中身ですとか必要性もわかって頂けると思うので。これからはすべてとは言いませんけれども、何回かに一回はこういった放射線防護というテーマで。都市でも例えば大きな東海の大震災が起こったら放射性物質が流れてくるなんていう方もいらっしゃいますので、都市でも防護については関心があると思うんですね。ですから、そういったことをテーマにして女性の方を中心にご説明し、あるいは意見を聞く機会があるということはいいいことではないかと思いました。

○近藤原子力委員長 ありがとうございました。

最後の点は、放射線に関する理解活動を原子力委員会が自ら行うのがいいのか、規制における考え方ということであれば安全委員会や規制機関でしょうし、専門家の社会啓発活動ということで、関係学会に市民との相互理解活動としてやっていただくか。市民教育の講座にエントリーしていただけるというのですが、相談してみますかね。そういうことでよろしゅうございますか。

○東嶋委員 はい。

○近藤原子力委員長 ありがとうございました。

原子力委員はオブザーバーだから。では、小川さん。

○小川委員 今回時期的に松江を選択したのはとてもよかったと思います。旧鹿島町というのが地元だったんですけども、大きい松江市に原子力発電所が存在するという状況になってかなり早い時期に松江に行くことができましたのでよかったと思います。

それから、私の終わった直後の抱いた感想は、結構コアメンバーもあのときタイムリーに発言して

いたかなという感じです。今までコアメンバーは何でそこにいるのみたいなときもありましたが、話のピンポンがとてもよかったと思います。私自身はもうちょっと発言したかったですが、時間の制約がありますのでそれは仕方がないことなんです。そんな感じを受けました。

ただ、アンケートを見てみますと、今回非常に珍しく夜行ったんですね。それで、それに関しては6ページに4人の方が時間が不適切だというようなお答えが書いてあります。それから、8ページの性別の参加、極端に女性が少ない。だから、このところが開催時間の問題が性別に影響しているなというような感じがします。夜やったのは女性を閉じ込めてしまったかなというような反省もあります。

以上です。

○近藤原子力委員長 開催時間は意見の分かれるところ選択だったんですね。土曜日の昼間にするか平日夜がいいかは。ただ、松江より外から来る方にとってすごく不都合だという御意見は気になりました。立地点に近い方からと理解して、つらいものがありました。

○小川委員 難しいところですね。

○近藤原子力委員長 そこはいろいろ考えて決めたんだけど、やはりそういう意見が出たということです。

○中村委員 ただ、どの時間帯にしてもこのくらいの数の意見は出ます。平日の午後は絶対無理というのも出てくるし。土日の午後というのは逆に子どもたちとの時間だからというのものもあるし、それぐらゐの数のネガティブなものはある程度は覚悟しなきゃいけない。

○近藤原子力委員長 はい、覚悟の問題というのはその通りと思います。

○小川委員 女性が非常に少なかったというのはちょっと残念だったなと思います。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

それでは、ほかに。吉岡委員。

○吉岡委員 私も出席したので一言言わせて頂きます。人が少なかったというのが1つのポイントで、女性が来なかった結果こうなったのかわかりませんが。プルサーマルとか地震とかではたくさん人が来るのに、うちに来ないのは何故だろう。いつも私は言ってるんですけど、発言しても聞き置かれるだけだということです。具体的に政策改善につながるルートが見えないというところがあつて、それが今回だけに限らないけれども、札幌も、私は行けなかったけれども、参加者が少なかったと受け止めています。つまり政策に反映するルートが見えないのが1つの重大な問題なのではないか。

木元さんはおやめになったわけですが、2001年から6年までの6年間ご苦労だったと思うんですけども。木元路線を、私はこの際抜本的に変える方がいいと思ってます。それについての議論は恐らく次回ぐらいになされるでしょうが。6年間そういうルート、具体的な意見が反映されるというベストプラクティスというのは、どれだけあったらいいかということの検証が必要であります。

残念ながら、うちの懇談会では皆無かそれに近いというようなことを言わざるを得ない、これをどうするのが次回以降の重要なテーマになると思います。

それで、全体の感想なんですが、何で高田さんがいるのかということ。とても違和感を感じました。意見発表者は地元の方というのが原則で、それに加えて普段政策あるいは事業等に影響力を持たない方、持ちたいんだけども持たない方、ということだろうと思うんですけども、この基準に両方とも外れています。私は福岡だけでも、福岡よりも遠い札幌から来られてというのは気になった。しかもある種専門家という立場ですので、何でこの人がいるのかというように相当に違和感がありました。

彼の言う内容についても違和感があったんだけど、時間を重視して私は言わなかったんです。私たまたま広島市の核攻撃被害想定専門部会というところにて、核災害には屋内退避が基本というのは違うんじゃないかと、いろいろな文献を読んで、内外の文献を読んで思います。核災害は復旧できるというのも違うんじゃないか。たとえばロンゲラップ島は確かに表面は人の居住するような状態だ。島の表面はアメリカが全部削って地中に埋めてふたをしているんだけど、ほかの部分の汚染は除去されてないわけです。果たしてそういうところで農業や漁業がどれほど可能なのか。そういうことについても、私のこの間の研究を通して、こういうのとは違うと思ったわけですけども。それについてはあの場で意見を言うべき時間はなかったの、あえて省かせて頂きました。

こんなところですよ。

○近藤原子力委員長 はい、ありがとうございました。

6年間のこの会の役割、それぞれの方が持っておられる評価等については、この後その他のところで意見交換をお願いしたいのでよろしく願いいたします。

なお、高田さんをなぜ選んだのかといわれましたが、この場で決めたように記憶していますが。

○中村委員 事務局推薦ですね。ただ、私自身は以前から知っていて、彼は広島にいて、あの時点では札幌に行ってたんですけども、広島で長くこの放射線をやってらしたのでというのが1つの私が納得した理由でありました。

○近藤原子力委員長 吉岡委員ご指摘のように、開催地域に関係がある方という原則で探して頂いて、その条件に当てはまる方だという説明を聞いて案として結構だと申し上げた記憶があります。ありがとうございました。井上さん、どうぞ。

○井上委員 皆さんのお話を聞いていて、市民参加懇談会の最初から去年の松江まで多分、ほとんど参加して、いつもコアメンバーは椅子が定まらないというか、今日私は何の役かなという思いが毎回いろいろなことをやって試してトライして思いました。松江のときは非常にうまくコミュニケーションが私も聞かせてもらえるし言えるそういう位置付けだったので、非常に個人的にもいい交流ができた市民参加懇談会の1つのパターンとしてよかったのかなと思いました。

それから、先ほど中村先生おっしゃったいわゆる地域へ行けば行くほど原子力とか立地地域に対す

る行政のかかわりの温度差が非常にあると思うんですね。私は関西ですから思うのですが福井の担当の職員は詳しいですし、マスコミの人たちも詳しいです。でも、ちょっとその隣、山1つ向こうに行くとかかなりマイナスイメージだけが入ってきてエキセントリックになって理解が進まない。そういうことが例えば行政合併なんかのときにもいろいろ影響を起こしてきているというのも聞いたりしています。ここは公務としての地方行政職員の人なんだから、もう理解すべき事項としてきちんとそういう機会が拡充されたらいいなと私も思います。

それから、同じように消費地域の都市における行政職の人たちにもきっちりこういう知識を入れていって頂く時期にきていると思います。

地震と絡めたり食品照射と絡めたり、東海や北陸もそうですけれども、いろいろなすべて暮らしのと原子力というのは絡んでいるわけですから、基本的な知識を公務員の人たちにはきちんと知ってもらって、自分の地域に対する対策がいつでもとれるようにしていく、そういうアプローチをこの市民参加懇談会も1つ役割を担えるのではないかなというふうに5年間かかわらせて頂きまして思いました。

そんなところです。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。浅田委員、どうぞ。

○浅田委員 コアメンバーとしての参加は2回目でした。その前はパネリストとして、その前は観客として、市民として参加をさせて頂きました。札幌のときに聞き置くだけではなくてコミュニケーションがとれたなということをととてもよいと感じました。松江はさらに、これはパネリストの選び方が広範でいろいろな分野の方があったことに起因するかもしれませんが、またコーディネーターの方の1つのお考えの下だったかもしれませんけれども。コミュニケーションがさらに進んでよかったという思いをいたしました。

高田先生に関しては、多分あの席上でかつて広島市にというお話があったので、私はその場で理解したように、時間がたちましたけれども、そんな印象を持っています。

それから、先ほど吉岡先生がおっしゃったプルサーマルや地震では人が集まるんだけれども、この懇談会には人が集まりにくいということが挙げられましたが、その原因として政策反映ルートがあるのか、どういうふうに反映されるのか、幾つ反映されたのかというご指摘があったかと思いますけれども。このところが広聴・広報の一番難しいところです。費用対効果ですとか定量的に分析できないところが難しく、その市民のお声を聞く場所があまりないように思います。霞が関の方から聞きに行くということがないと思うので。そういう意味で私は非常に大切なパイプではないかというふうに思いますので、評価の軸をちょっと別なところに置いて頂いて、ぜひこういう部分を大事にしていってほしいなと感じています。

以上です。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

今回、事前に意見のアンケートをとったのでしたっけ。

○西田補佐 参加者の皆さんからは事前にはとってない。

○中村委員 意見募集が、札幌の後の議事録がありますけれども、意見募集しようという提案もしたんですけれども、それは時間的な問題もあってできなかったんですね。ただ、参加される申込書にお書きになったのは私は理解しておりましたけれども。意見募集という形ではしなかった。

○近藤原子力委員長 参加者、参加希望の申込書に書いた意見はとったの。

○西田補佐 申込書のときに意見をまとめたのはありました。

○近藤原子力委員長 それは共有したんだっけ。たしか、こういうところに関心のある方が集まっておられるという認識をもった記憶がありますが、それで終わりというのは申し訳ないですね。大事な意見ですからね。

はい、ありがとうございます。

小沢先生何か感想ありますか。

○小沢委員 参加してないのですが、12月の開催結果についてどうしていまごろやってるのですか。

○近藤原子力委員長 申しわけございません、ちょっと時間かかっています。

○小沢委員 よくみんなもっともらしくよろしいことがありましたなんて覚えていられるなと思って感動しております。本当はこれじゃいけないんじゃないですか。

○近藤原子力委員長 いけないです。

○小沢委員 世の中動いているのに。4カ月もたっていますよ。

○近藤原子力委員長 はい。終わってすぐ速報は委員会にいただいたのですが、この形での総括の会については、年末年始に委員の交代が重なり、体制を整えるのに時間が掛かって、といっても言いわけばかりです。

○小沢委員 どこだって年末年始、どの委員会にもきますよ。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

そういたしますと、今お話伺って資料第26-2号には、市民のための放射線に関する学習の場とか地方自治体の職員のための原子力に係る学習機会の整備をという意見を書き込んだ方がいいのかなと思ったのですが、この資料は会場で頂いた主な御意見に対する委員会の対応を述べているものですから、それは別だというご意見があるかもしれません。どうしたらいいですかね。

○西田補佐 そうしましたら、ただ今の委員の皆さんのご指摘を踏まえまして、対応ぶりとか書きぶりとか御意見のところの書き方、まとめ方もちょっと工夫させていただいて。

○近藤原子力委員長 あなたが決めるんじゃないくて、ここにいる参加した方がこの資料第26-2号のまとめ方でいいかということについて、せっかくもたれたご意見もこの資料に入れるべきや否やを

おはかりしているんです。

どうですか。そうすると、こういうこともあると発言が続いて際限がなくなるかな。

○中村委員 ただ、資料第26-2号に押し込むのはちょっと厳しいと思うんですけども、資料第26-3号にして頂いて、今日のコアメンバーでのご発言の中からのエッセンス、提案を含めた評価と提案、これを箇条書きでもいいので、これがコアメンバーから出されたということを残しておいて頂くといいのかなと。

○近藤原子力委員長 いかがでございましょうか、今の中村委員の提案。

○吉岡委員 賛成ですけども、例えば全日空の機内誌なんかでは「これこれのご指摘がありました、改善しましたと」毎号出てるわけね、毎月2件ぐらい。そういうふうに私が前から言ってるQC的な改善というようなものを、ちょくちょく入れていくということが大事だと思いますから、次回以降の重要課題にしたいと思います。

○近藤原子力委員長 はい。提案、改良サイクルが回っていることが見えるようにするべきということですね。

○吉岡委員 はい、そうです。

○近藤原子力委員長 はい、それでは、資料はそのままにして、この席であつたご意見を沿えて委員会に報告することにさせていただくことにします。

○出光委員 私もちっと所用で出れませんでしたどうも申しわけありませんでした。特にこの件について松江の方のお話はもう皆さん出られた方でお話しされて、ちょっと出てなかったのも特に申し上げることはないのですが。

先ほど近藤委員長の方から言われた広報の話に、学会という話も出ましたので。きのうまで原子力学会ありまして、ちょっとそのときにバックエンド部会という部会がありましてその総会で話があって、学会の中で広報をどうするか。学会全体でなくて部会の方で、廃棄物関係なのでそちらの方も何かやらなきゃいけないよという話で一応検討するということにはなりました。ただ、バックエンド部会お金は割と持っている方の部会なんですけど、それでもいろいろなところに出ていってということではできないので、どうしたものかというところでちょっと話がとまっちゃったというところがあります。一応考えてはいますということでご報告をしておきます。

それとあとこの市民参加懇談会、私もそうたくさんは出ていないんですが、市民の方から意見を吸い上げるというときに多分交流会に出てきて、多くの一般の市民の方でなかなか意見が言えないんだと思うんですね。だから、それをどう吸い上げるかというところをもうちょっと知恵を絞らなきゃいけないのかなという気はします。割と意見言ってくれるのは慎重な方々とか、割とともと活動されているような方というのが多いかと思いますが、そうでない方がどう考えているかというのは割と我々知らないんじゃないかなという気がいたします。そこら辺も多くの方が持っている心配のような

ものをどうやって引き出すか、それをどういうところが心配なんだとかそういうところも引き出すようなことも必要なのかなといった気がいたします。

以上です。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

それでは、資料第26-2号とこの席でのご意見を併せて原子力委員会に報告することにします。その際には、こんな時間がたつまでこの会合の開催を遅らせていたことについて厳しいご指摘があった事を加えましょう。よろしいですね。それでは、そのようにさせていただきます。ありがとうございます。

そうすると、次は、その他議題でございますが、さきほど申し上げましたように、今後の市民参加懇談会のあり方について自由討議をお願いしたいと思います。最初に私のほうから今考えていることを少し申し上げます。既にお話がありましたように、この懇談会は、木元委員を座長に、コアメンバー会議を26回、懇談会を14回開催してきました。木元さんは委員を退いたわけですが、委員会としては、専門部会と懇談会という種類の政策検討の場を持っているところ、その懇談会のひとつとして、今後とも活動を継続していただくのが適切と考えております。

ただし、その使命として当初原子力委員会が決定したところは実績と整合しないところがあるので、そこはこの機会に少し整理したいと思っています。その場合、この懇談会の使命としては、どちらかといえば、この数年の現実にあわせていくのがよいと思っています。当初の決定では、市民の声を聴いて、それを政策に反映する方法を検討する場となっているのですけれども、実際には、それをいわばオンジョブで検討するというか、実際に広く聴いた意見を委員会にぶつけるという運営をしてこられたように見えるのです。しかし、それでも、先ほど吉岡委員は、市民からすれば意見が政策に反映されるというようには見えていないのではないかと、私は、そういう面で機能してきたところもあるのかなと思うのですが、吉岡委員はさきほど全然ないとおっしゃられましたね。

○吉岡委員 全然とは言いません。

○近藤原子力委員長 委員会の立場では、最近でも、食品照射についての取組の検討においては、姫路の市民参加懇談会でいただいたご意見は部会の検討のスコープを考えるのに役立ちましたし、勿論、原子力政策大綱の検討においては、これには吉岡委員は策定会議にも参加して内側も見ておられたから、それでも意見は違うのかもしれませんが、策定会議の開催前に行われた市民参加懇談会での御議論、市民の御意見は、策定会議のアジェンダ設定に反映した記憶があります。

そういうことで、市民参加懇談会の使命ですが、基本的にはこの会で私、あるときアンテナショップという表現を使ったと思いますけれども、あるとき、あるところでのスナップショットとしての市民の意見を皆さんのお力添えで掘り起こしていただく、アンテナショップとするのがいいのではないかと考えています。

委員会としては、核融合研究をどうするとか、高速増殖炉の研究開発をどうするとかという個別の政策課題については専門部会を構成していますし、現在忙しくしている政策評価部会は、個別の具体の政策分野の審議に際して市民の意見を聴く会を開いてから、パブコメにさらすドラフトを用意するようにしています。特定の政策課題については、そのようにしているのですが、そこでも、毎回、私どもが想定していないご意見をお聞きして目からうろこという思いをすることがあります。そういうことで、それとは違った切り口と設定で、皆さんのお力を得て市民の生の声をお聞かせ頂く場という使命でどうかと考えて、設置紙をそういうあり方に合わせて書き直していくことを考えております。

それから、メンバーについては、基本的にはノウハウをお持ちの現在の委員に引き続き委員をお願いしたいと思っておりますが、勿論、第一には、各委員それぞれご希望を伺いながら見直すところがありますし、政府全体の方針で審議会の委員については任期とか年齢とかいろいろな制約条件がありますので、そういうものもまた尊重しなければならない。これは、実は役所によってどうも尊重の方法も違うのですが、内閣府はタウンミーティング問題を経験したこともあって、この辺をストレートに処理することとしておりますから、そのようにしていくことになります。

それから、新しい座長ですが、座長は新しいメンバーを確定してから委員の互選でお決め頂くのがいいかと考えています。

私どもが今後のことについて今考えていることは以上でございます。それでは、皆様の方から御議論、御意見、御提案をちょうだいできればと思います。よろしくお願いいたします。

○吉岡委員 大体これから市民参加懇談会がどうするべきかについて5つばかり、今日の電車の中で挙げてきて、1点から5点まで順番に述べます。ごく簡単にしたいと思います。

1番目は、木元さんがやろうと思ってそのまま退任されてしまった6年間の総括の会はやはりぜひ一度持たなきゃいけないだろうなということ。できれば木元さんもオブザーバーかあるいは招聘人か何らかの形でお呼びして、総括をするということが必要でしょう。やはりこれがなくて次に移るといのは心残りの方がたくさんおられると思います。

2点目は、委員にも市民参加というのが1つのアイデアとしてやはりあるであろう。つまり、公募で選ぶということです。公募の枠をつくる。全部公募で選べなんて言っているわけじゃなくて、これは市民系の団体でもそういう選考委員を選ぶ際に公募の枠を1名つけろとかそういう議論は出ているんですけども。その際に公募の選考基準としては、やはり運営に関する具体的な提案をお持ちで率先してやって頂ける方。その中から何人か選んで抽選でということになるのかもしれないけれども、公募の委員枠をつくるというのはおもしろいのではないかとというのが2点目でございます。

3点目は、先ほど言った改善QC的に、基本政策についてそれをやられると困ると思うんですけども、基本政策以外ならやる余地はたくさんあると思いますので、そのルートを開拓するというのが重要な点です。

4点目は、過去じゃなくて、将来の話しになりますが、この委員会、懇談会自身が責任を持って政策についての勧告を行う、勧告というのは強すぎる言い方ですけども、意見書を近藤委員長向けに出す。つまりメッセンジャーではなくて、調査をしてこういう市民参加の方策について検討くださいというような勧告、意見を出すというそういう活動があってもいいのではないか。その際のベースとして、私たちが学習しなきゃいけないということで、学習の材料としては過去6年間でどういう効果があったかを関係のさまざまな部署にお願いをしてこういう成果がありましたというのを出して頂いて、それを踏まえてもう一步踏み込めるところがないかということ調査するということです。

5点目は、市民参加についてさまざまな試みがこの20年ぐらいの間に内外で行われているわけがあります。私が知っている限りのことでも、コンセンサス会議というのを私の友人の小林君ですとか若松君とかそういう人たちがやっている。あるいはサイエンスカフェというのもあって、これも何人もの人がやっている。そういう形でいろいろな実践がなされている。もちろんそれは外国産、欧米が原産地であるわけですけども、欧米の人からもお金があれば意見を拝聴するというような形の会があってもよい。市民参加の形態が多様であり、それなりの蓄積がなされている、これについて私たちが学習して、その上で新しいやり方の開拓を行っていくという、これが重要なのではないかと思います。

簡単ですけども、そういう構想を持っております。

○近藤原子力委員長 今の5点目、最後の5点目の4番目との関係は。

○吉岡委員 4番目にまとめて。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

中村委員、どうぞ。

○中村委員 この先の話なので、この席でどうかというのはどうなんですかね。例えば吉岡さんも僕も新しいコアメンバー会議の委員にならなかったということを前提にして考えると、逆に僕らの置き土産として、今、吉岡さんが言われたようなこれからの発展のためにというようなことを言い置いていくのも大事な事かなとは思いますが。基本的にはどうするかと、今委員長言われたように、特に座長が、もともとの設置の経緯からいって、原子力委員である木元委員が座長をお務めになり、自らの発案で構想を練られて発足をしたということと、今度の新生市民懇コアメンバー会議というのはちょっと性格を異にしてしまうので。ただその役割ですとかそういったことについては当然継承され、共通するものがずっと生き続けると思うんです。形自体が、はっきり言って原子力委員会とどういう形になるのか。今までは座長がイコール原子力委員であるわけだから、その辺はいずれにしろ明快だったわけですね。それがいい場面もあればそうじゃない場面も多分あったんだろうと思うんだけど。

そこのところが変わるということになると、やはりちょっと性格づけなんかを新しい新生メンバー

で相当議論しなきゃいけないくて。そのときに今の吉岡さんのご提案なんていうのが実現の方向へいくのか、それとも違う性格づけになるんじゃないかという議論になるのか、それはちょっとわからないんですけれども、それは次回以降になるのかなという感じです。

ただ、これまでの6年間の市民懇コアメンバーとして何をバトンタッチするかという視点で言うなら、吉岡先生のは吉岡先生のご提案だし。僕自身は簡単に言うと、独自性というのをどこまで貫くかというのがこの会にとっては大事なことなのかな。ずっとコーディネーターをやらせて頂いたのでその都度悩んだり形を変えたりとかいろいろなことをやってきたんですけれども、最後に到達した部分というのは井上委員がおっしゃって頂いたように、コアメンバーのポジションというのを何とか明確にしていかなきゃいけない。最後それは少し意識して皆さんにご発言をして頂く形でやったのが松江ということになると思うんですが。札幌ぐらいから大分意識したんですが。

ただ、その途中のところで、逆に原子力委員会からの要請で御意見を聴く会とどう違うのかわからない開催の仕方というのもあったので、それはそれで我々のとらえ方として飲み込んではいますけれども、今後はどうなるのかなというあたり、会自体のあり方ということと含めて原子力委員会との関係がどうなるのかなというところで。私自身はやはり独自性を貫くという形でコアメンバーが議論をし、方向性を見いだして、それを原子力委員会と調整していくという形がやはり望ましいのじゃないのかなと。

現時点ではそこまでです。新委員になったらまた新コアメンバー会議を考えますけれども。

○近藤原子力委員長 はい、ありがとうございました。

小川委員、どうぞ。

○小川委員 吉岡委員のご提案について、3番の改善QCの件、それから懇談会が原子力委員会に関して勧告のようなものを行ったらどうか、それから市民参加に関して内外のいろいろな試みも取り入れたらどうかというのは、やはり新メンバーになってから考えるべきことだと思います。今私が例えばサイエンスカフェのようなそういう形式、私はいいんじゃないかと思っているんですが、それはここで決めちゃうことはできないかと。3、4、5に関してはそう思います。新しい人たちが考えていくべきかと思っています。

それから、総括の会議のことですが。それはすごい膨大なことになると思うんですね。通り一遍じゃできないですよ。それが実際に事務的なこともいろいろ含めて可能かどうか。可能ならやったらいいと思うんですけれども、そんなに簡単に普通のコアメンバー会議のような形ではいけないと思うんですよ。現実的かどうか考えると難しいんじゃないかという気がします。

それから、委員は市民参加で公募で一部選ぶと。この件に関してはこれから新しいメンバーを決めるときの方策ですからこれは一部そういう形になっても、皆さんそれで賛同されるのだったらよろしいんじゃないかと思っています。

○吉岡委員 私も小川さんが言ってる次期メンバーで正副座長を選んで、それを中心に新メンバー全員で相談をしてさまざまな新しいポリシーについて決めるべきであるという点はもちろんそれを前提として私は話しているわけで、それでよいと思うのです。ただ、それを今日あえて言ったのは別にそれで決定せよということではなくて、今までのパターンとは異なるいろいろな可能性がありますよという、それを念頭に置いてこれからいろいろ考える材料の1つにしましょうというそのくらいの意味です。

○小川委員 わかりました。すみません。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

私からもちょっとだけいわせてください。中村さんのご意見にご意見を聞く会として機能させられたこともあるとのご指摘について、私は原子力委員長をお引き受けして、市民参加懇談会について、その機能を勉強し始めたのですが、それまでの機能はともかく、原子力政策を見直すという優先順位の高い課題があって、私としては、その検討の視点について、国民の皆様の求めるところを知りたかったので、委員会自らもご意見を聞く会を開催して、ここのコアメンバーからもご意見をお聞きしたのですが、市民参加懇談会にも、そういう役割を果たしていただくことをお願いしたのです。東京で行った市民参加懇談会は十分その機能を果たしていただいたと思っています。

ですから、吉岡さんの総括提案に関係するんですけれども、私は、この懇談会は毎回前回は総括し、委員会の要請も踏まえて、次の会を設計するというように、逐次的に成長してきたのではないのでしょうか。ですから、それを最初から総括するというのはいかなものか、次の会が大事なのであって、木元路線の総括をしていただいても委員会としてはどうするのかなど。勿論、皆さんがそうしたいというなら、だめというわけにもいかないと思いますが。

小沢委員。

○小沢委員 全体の総括というのはペーパーが出ているんだから全然必要ないと思うんです。それぞれの委員の総括は出しておくべきだと思うんですけれどもね。

私は「知りたい情報は届いていますか」というふうに人に問いかけながら、私の知りたい情報はほとんど新聞やそういうところからで、この会議では得ることができなかったと思うんです。来たとときからずっと違和感があったのは、私だけがどうも原子力と関係のない人らしい。ほかの方はどうもみんな何かの形で原子力についてよくご存じのようで、何か出てもぱっぱといっちゃう。だけれども、私なんか新聞とかそういうのを読んで、例えば今いろいろなところでずっと何かあれが隠されていたとか制御棒が抜けて臨界に達していたとかというのがあるとかこういう会議が開かれる。まず今話題になっているこういうものについて原子力委員長もいるんだから、たとえ5分でもお話を頂いて、今政治を騒がせているこういう問題がありますが、これについてはこういう意見を持っておりますとまず言ってもらってから。それに対してそれを是とすれば是でいいし、いや、それに対して私はこう

いうこともちょっと知りたいというのがあれば、冒頭に、あるいは後回しにしましてもいいけれども、何度かそういうご質問をしても満足な時間をとってさえ頂けなかった。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

井上さん、先ほどご発言されたけれども、もういいですか。

○井上委員 今、小沢先生おっしゃいましたが、素人と言うなら私など本当に一市民で、電気はどこから来るのぐらいのレベルで、たまたまこの会に参加させてもらったことで、自分がそこにいる理由は、ひとえに私だったらこんなことが聞きたい、私だったらそういう場の中で、そういう場をつくってもらえたら私も意見が言えるかもしれないし、聞くこともできる、いわゆる行政がおつくりになるパブリックコメントで市民の意見を聞くとか、タウンミーティングで御意見を聞くとかというものとは違う、つまり縦の関係から完全に横の関係へもって行って、そこにコミュニケーションが生まれる一員としているなら素直に聞けるし素直に言ってもらえるかなという思いでした。その結果が大ざっぱであってもこういうアンケートで満足したとか期待しているというこの結果を見せてもらって初めてああよかったのかなと思います。

そのいわゆる行政的におやりになるお仕事のレベルや位置付けはよくわかりませんが、こういう会は珍しいのではないかなと思うんです。本当に完全にフラットの形にして、同じところに足を置いて、同じ目線であなたと私がいるのよ、私もわからないけれども、あなたはどうかという感じを、そういう専門性を横において言えた会はこの会だけだったと思います。

○小沢委員 言えたんですか。

○井上委員 私は聞けましたし、少しでもそういうチャンスが増えればよかったのかなと思います。そういう位置づけ以上に何を求めるのだろうかというふうに思います。

○近藤原子力委員長 小沢委員がこの会はトピカルな情報すら提供されないよと、もちろんそのとおりだと思うんです。私も責任は感じているんです。しかし、オブザーバーで発言を、指名されないと言言できないという立場で。それは同じく市民参加懇談会当日もそうなのでありまして、変なこと言ってると思ってもぐっところえてなきやならない。中村さんに振ってもらえなかったら発言できない。だけれども、それはそれでまた井上委員がおっしゃったような意味で、そこである種納得というか、共感という世界がかもし出されたとすれば、それを私があえてそうじゃないと矢を打ち込むのもどうかかなと思ってみていたという無責任なことを言っはいけませんよね。今度はこうしようという提案し、もちろん、その前に、一番最後にあいさつ、お礼を言うべきところで二、三、付言するということをしてきました。

ただ、大事なことは、小沢委員がおっしゃった、せっかくここに来ているのに原子力委員会が何を考えているのかわからない、新聞に出ている原子力関係のできごとについてもわからない。たとえば、今日今ごろ各電力会社からどんなレポート出しているのか、それでどう扱われるかということについ

て、ご質問があれば、ご紹介すべきと思っていますが、それはお集まりの皆様のお決めになるところなのです。

○小沢委員 維持することだけ、存在してこういうものが存在しているんだ、それには意味があるんだと、そのことだけを大声で言っても駄目だと思うんです。やはりほかと全然違うということであれば、そこが本当にフランクにいろいろな話ができるようなものにしていって、あそこ、ほかのところはどうも何かよくわからないけれども、あそこの会に行くと相当フランクにいろいろな話ができるよねみたいなふうにどこかから流れていけば、私はそんな大きな会議でもないし、十分役割を果たすんだと思うんですよね。

だけれども、やはりお役所会議みたいになると、いつも形式を踏んで発言がこうあってということだけだとやはり世の中の流れについていけないと思うんです。インターネットや何かで情報を得ちゃうんですよ。私はインターネットもやりますけれども、ここでわからないことは素人ですから一生懸命読みますけれども、頂いたものは読みますが、あとは新聞です。ご存じのように新聞は批判的なんだけど、それに相対する意見の情報ってないんだから、新聞の言うことはごもつともで、また何か隠してるなと私はもうすぐ思っちゃいます。なるべくマイナスな意見は持たないようにしたいと思っています。

だから、そういうことを率直に話し合えるのが必要なんじゃないかと思います。委員同士が信頼し合ったり、この話どうなんだろうねと言ったら、いや、こうだよ、なるほどね、わかったと思ったりする。原子力報道を考える会というのはなかなかいいリーフレットが来ますけれども、遅いんですよね。それから、やはりあまり素人が知ってる立場で話すのはまずいでしょう。

○近藤原子力委員長 多分今小沢委員がおっしゃった最後の部分を除くところは、それを市民と一緒にやれる場として考えたと思うんです、理念として。それが井上委員もそういう意味である評価されたのかと思うんです。

それから、もう1つは委員の参加の問題ですね。メンバーでありながらなかなか寄与できないという方がいらっしゃっている現実があって、もうちょっと本来お願いしたんだからそういう市民との対話の場でご活躍頂くべきはずが機能できないままに終わってしまった。

○小沢委員 申しわけありません、私が一番出席率悪いんです。

○近藤原子力委員長 いやいや、私どものプログラミングの問題でもあるんです。

○中村委員 この際だから言ってしまうと、いわゆる市民参加懇談会のあり方というのは設立のときから考えて、今の井上委員の思ってたらしやる感触というのが多分一番近いと思うんです。小沢委員のおっしゃることもわかるところあるんだけど、僕が少し共感する部分というのは、市民参加懇談会は懇談会としてコアメンバー会議というのがよくわからない。この機能が結局次やるための我々準備会の幹事という感じで来てるわけですね。コアメンバー会議は小沢さんが求める部分とい

うのはあると思うんです。我々もいわゆる周囲の市民に始まっているいろいろな人に発信できる力があるわけだから、この場で何か得られたらそれは還元できますね。ところが、僕らに課せられた仕事というのは、さあ次どこでどういうのをやるという、そういう幹事さんの役の方が多くて。それこそ今の問題どう考えてどう伝えていったらいいのという話し合いができてなかったという点で、コアメンバー会議の性格づけとか役割ということをもう一回。

背景には、はっきり言わせてもらおうと、事務局がなくなってなかったんですよ。今回なんて4カ月たって12月の反省で、しかも木元委員が12月におやめになることはわかっている、新年度からどうなるかということが一言もなかったわけでしょう。これはやはりね、事務局体制というところから見直してもらわないと。それで、担当の皆さんは2年ぐらいで交代されるというお役所の都合があるんだけれども、やはりその辺の機能をしっかり果たして頂いて、これも毎年年度初めに僕が怒って言って、年末になってやはり達成できてないと毎年言い続けたことですけれども。今年についても木元座長の退任ということはあったかもしれないけれども、コアメンバー会議は少なくともあと3回は開かれていたはずだし、3月中にどこか現地での市民参加懇談会もやっていたはずなんですよ。年度計画ではそうになっていたはずなんですよ。それが3月30日にこういう会議をやっているというのはやはり理解できない部分があります。

はっきり言って最初のことから言うと、専門委員だけれども、僕辞令も任期ももらっていない委員ってここだけです。あとは財務省でも国土交通省でも全部辞令もらって任期のある委員をやってきたので、この委員ってどういうことになるのかなと。

○近藤原子力委員長 委員会の決定は委員の合議によるところ、任期を越えたことまで決めていいのかなという問題意識が強く出すぎたかも知れません。また任期の問題は、専門委員を任期なしでお願いしていた時期があったということです。それは発令当時はそういう規定になっていただけのことで

○中村委員 その辺のところも含めてですね、事務局機能というのをしっかりして頂いて、コアメンバー会議に何を求めてくるのかということもこれは設立紙には書かれないのかもしれないけれども、明確にしないとやはりこれからの新しいコアメンバー会議というのは機能していかなくなるように思います。

○近藤原子力委員長 コアメンバー会議が決めなくては事務局は動けないのすがね。それで動いては、だめ審議会になってしまいませんか。

○小沢委員 中村さんの話でいけば、どこそこでやるというのは委員会から言われてもいいと思うんです。事務局から。というのは、何年、あちこちでいろいろなのが開かれている。それは私なんか全部は知らないけれども、原子力委員だったら掌握できるわけでしょう。だから、今回のこの市民懇談会は東京でやりますとか札幌でやりますとか何とかという、それを決めてくださるのは構わないと思

うんです。

さて、それでは今回はどういう議題でやるかとか、前回のあれに踏まえてこことここが足りなかったんじゃないか、だから、ここを中心にその地域であればやろうとか、そういう形にした方が効率的じゃないですか。それこそ幹事会みたいとおっしゃるのは、それはどこがいいかというのは1時間ぐらいかかるんですよ。

○近藤原子力委員長 私は、それが皆さんの非常に重要なお仕事だと思ってやっておられると理解してじっと我慢していた。時には議事進行の観点から発言しましたがけれども。

○小沢委員 どこで何があったなんて、それは聞いているのしんどいですよ。それは全体わかるところでやってください。

○小川委員 木元前座長にすれば、民主的にやりたいんだということが非常に出ていて、原子力委員会で決めましたということを望まなかったと思います。。少なくとも今まではそうだったと。今後変えるのでしたら、話し合わなければなりません。

○近藤原子力委員長 今後は、この会議は、市民参加懇談会をやるための場所を決めたりテーマを決めたりすることをこのミッションという整理をしようかなと割り切っていたんですけれども。それは間違いですかね。

○小沢委員 それは提案なさりたい方は今度ここでやった方がいいんじゃないかと事前に事務局に提案をなさったりするのは全く自由だと思いますけれども。

○近藤原子力委員長 吉岡委員の先ほどのご提案はこのあたりをどう踏まえておられたのでしたっけ。

○吉岡委員 1つつけ加えるならば、イベントばかり私たちはやってきたという問題があって、イベントは不特定多数の人が大多数はしゃべらないで聞いているというようなものだが、そういう形式はほどほどでいいのではないか。つまり、参加するからには話して頂くという、そういう形で、人数は限られてくるかもしれませんが、だれもが出るからには話すという形の会を重視するという方向へもっていけばいいんじゃないか。その場合には別に場所の選定とか工夫はいらないのではないかという認識であります。

○近藤原子力委員長 今おっしゃったのは、コアメンバー会議のことをおっしゃったのか、市民参加懇談会自体のことをおっしゃったのか。

○吉岡委員 これは市民参加懇談会のことを言っていて、そこにコアメンバーも対等の立場で意見を言うものとして。

○近藤原子力委員長 吉岡委員のイメージとしては市民参加懇談会というのはあのテーブルがトータルだと、極端なことを言ったら。

○吉岡委員 はい。企画は重要ですが、それ以外の仕事は、こういう場所の選定とかではなくて、調査研究機能です。

○近藤原子力委員長 市民参加懇談会のメインテーブルに市民とそれからコアメンバーと一緒に座っているあれがトータルであって、傍聴人という席がおかしいということをおっしゃっているわけね。

○吉岡委員 オブザーバーとして、近藤委員長が来ることは大いに結構なんですけれども。

○近藤原子力委員長 全員参加の市民参加懇談会がいいということをおっしゃったわけですね。

○吉岡委員 はい、だから、数百人の召集はいらないと。

○中村委員 ただ、僕は聴衆と呼ばれている参加している人たちが市民なんだからと思ってますけれどもね。それ限りというのはちょっと別に考えるものなんじゃないのかなというふうには思ってます。そこはちょっと吉岡さんと考えが違いますね。

○近藤原子力委員長 ちょっと遅く来られてたお二方、どうぞ。

○新井委員 私が言いたかったのは、ちょっと話が飛んじゃいますけれども、中村さんさっきおっしゃったように、ちょっと遅れすぎたなということで、その遅れた事情がこちら側にあったわけですから、松江の人には失礼しちゃったということで。内部事情でこんなふうに遅れてしまうのはまずまずいと思ったことだけを1点言いたかったのと。

これは近藤委員長から話が出てしまいましたけれども、前回は申し上げましたように、参加不参加の比率がものすごくバラバラになっているので、これはやはりこの委員を引き受けた以上はなるべく出るというのが、今日遅れてしまったのであまり大きな口はたたけないんですけれども、やはりバランスが悪すぎるなということはあるまして。その辺は。この2点だけ今日は言えればいいかなと思って参ったものですから。

以上です。

○碧海委員 では、私も遅れたことをまずおわびしなきゃいけないんですけれども。何しろ13時を3時と間違えまして。連日午後の会議が続いているとやはりごちゃごちゃになってしまっ、お昼を食べながら発見して青くなったという。すみませんでした。

今まで皆様方のお話を聞いていて、1つだけちょっと私は違うかなということを申し上げようと思いますが。それは、今場所を決めるのに1時間もかかっているという話がありましたが、私は必ずしも場所を、物理的に場所をどう決めるかということで時間がかかっているわけじゃないと思うんですね。やはり今そこでやる意味とかそういうことを当然考えている。

それから、このコアメンバーの特質は、このコアメンバー会議だけでなくほかに幾つもそういうネットワークとかルートとかいろいろなものを持っている人が多いわけですね。ですから、そういう意味でそういう自分が関わっている情報を反映させながらその場所を決めるとかテーマを決めるとかやり方を決めるとかということを結構話し合ったというふうに思いますし。私自身はやはりこのコアメンバー会議で自分が原子力についてどう思っているか、何を考えているかというようなことを議論するつもりは全然ありませんでした。つまり、それはほかのそれぞれの場所でやるということで。

このコアメンバー会議はやはり原子力委員会という公の機関がやられる事業というのはこういうものがなければ、どちらかと言えばやはり天下りの的というか、今度はここでやりますが、それについて御意見はということで進んでしまいがちですけれども、そうじゃない形になっていたというところに意味があるんだというふうに思っています。過去にいろいろな反省点は、その都度あったと思いますけれども、原子力委員会の活動としてそれなりの意義はあったと思います。それで、皆さんもちろんそういうふうに思われているんだと思うんですけれども。

ただ、これから先のこととなりますと、昨日も食品照射の公開フォーラムやられたと思うんですが、公開フォーラムですとか御意見を聴く会ですとかそういう原子力委員会が実際に関わられているそういうものとのやはり違いがもうちょっと明確じゃないと、一般の市民の側がなかなかわかりにくいんじゃないかなという気がします。

松江のこのアンケート結果や何かも今ちらっと大急ぎで目を通したんですが、参加した人たちがほかの人たちがどういう意見を持っているか、いろいろな意見があるということがわかったというそのことには私はやはり意味があると思います。日本人は決して議論は得意じゃありませんから、ああいうところで意見述べるのを聞いていると、非常にむなしい思いをすることは結構多いんですが、それでもそこに参加して何も言わなかった人たちがそういう感想を持って帰ったということは私は意味があるというふうに思っています。

以上です。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

東嶋さん、どうぞ。

○東嶋委員 私は一、二年しか参加させて頂いていませんが、1つはこの市民参加懇談会コアメンバーの方たちがどこでやるか、どんな形式でやるかも決めて、そして大体的場合は自分たちも壇上に市民の方と一緒に立って話し合いながら御意見を引き出していくというやり方、これはほかにはない形式だったと思います。

ただ、それは恐らく木元先生とそれから中村さんの見事なコーディネーターとしての能力があり、かつ木元さんや中村さんに共鳴してじゃあ自分もやろうと思って来た仲間と言ったらおかしいですけれども、意思を同じようにした人たちがコアメンバーであったからできたのではないかと考えています。これと同じ形式を、例えばどなたが座長になるとかどんな方が委員になるかわかりませんが、木元さんを抜きにしてやるというのは恐らくとても、まず1つはテーマがいつも漠然としているとか、それからコアメンバーが壇上で意見を引き出さなきゃいけないとか非常に難しいんですよね。ですから、多分同じ形式で同じ効果を出そうと思うとなかなか難しいのではないかと考えています。

ですから、そもそも市民参加懇談会とかコアメンバーということにこだわってこのまま木元さんがいないのにやる、そのまま続けるべきなのかというのが1つ疑問があります。それで先ほど近藤委員

長がこれからどうやってやりたいかミッションをお話しされますと言ったときすごく注目して聞いていたんですけれども。大変申しわけないんですけれども、市民との対話、市民の意見のアンテナショップという概念はわかるんですが、じゃあ具体的にこの会議を個別政策に対する御意見を聴く会あるいは公開フォーラムのような情報提供型のものとどう違うものとして位置づけて、これを原子力委員会の広聴・広報なりにどうやって役立てたいのかというミッションというかビジョンが見えないので、ちょっと話がぐちゃぐちゃになりましたが、これから先市民参加懇談会がどうかコアメンバー会議がどうかというよりももうちょっと根本的にこの広聴・広報委員会というものをもし持つのだったらどういう形式になるのか、そのあたりから原子力委員会の方からビジョンを出して頂かないと、私たちも何か言いようがないのかなという気がしています。

ですので、私の意見は、ご意見を聴く会や情報提供型の公開フォーラムと変わるもの、つまり広いテーマで常に市民に開かれているそういうイベントなりあるいはサイエンスカフェでもいいですし、あるいは広聴・広報のあり方に関してこのメンバーの委員の人たちが議論するでもいいですけれども、そういうことをやっていくんでしたら何かコミュニケーション委員会とか広聴部会とかそういう形でやられた方がいいのではないかなというのが私の意見です。

○近藤原子力委員長 ありがとうございます。

最初の件、私の説明はさっぱり心に響かないと。

○東嶋委員 響かないと言ったのではないですけれども。すみません、もうちょっと何か市民参加懇談会、これからのビジョンはこうですというふうなものかなと。それは多分近藤委員長は私たちに意見を述べてもらって考えたいということだったのかなと思うんですけれども。

○近藤原子力委員長 押し売りしないということです。しかし、おっしゃるとおりなので。確かに従来その紙がなくて今までやってきたということがあって、それはあなたがおっしゃるとおりで、木元さんのパーソナリティのゆえんだと。今後それが無いわけだから、改めてちゃんとした文書をつくらなきゃならないというふうには思っております。

それで、今伺っているのは、懇談会というものとコアメンバー会議というもののそれが2つそれぞれに意味があって、インディペンデントという面もあるということをおっしゃられると、私はアンテナショップをちゃんとマネージするというところだけを頭に入れておいたものですから、考え直さなくてはと思い始めている状況にはあります。

浅田委員。

○浅田委員 今のご指摘とはちょっと別、元へ戻ってしまうところがあるんですが。中村委員がおっしゃられたところで私が確認しそびれているかもしれないと思って、最後確認なんですけれども。座長は新メンバーの中で互選というようなお話が出ましたが、その新メンバーというのは原子力委員がお入りになるのかならないのか、そこのところはどうなるのかなというのが一番私としては問題です。

それは原子力委員会とこの市民参加懇談会の関係性はどうなのか、そこのところが一番クリアであってほしいなと今は思っています。

○近藤原子力委員長 原子力委員会における懇談会とか専門部会というのは、従来多くの場合はもちろん原子力委員会の委員はメンバーじゃないんですよ。メンバーなんだけれども、普通は静かにしているメンバー、サイレントメンバーであるというのが普通なんです。そして議論の理解に努めて、部会の報告を受けて、委員会としての態度を決めるという形をとります。少なくとも従来は。ただ、私が原子力委員会の原子力委員になって策定会議を企画したときには、これは私がやりますと宣言したんです。これはやはり我々が決める責任を持っているので議論を総括しリードしというのは私どもがやらなくてどうするというで押し切ったのです。しかしすべてそれではなくてはいけないということでもない。ほかの専門部会、核融合とかそういう専門部会はもちろん座長は専門家、委員の互選でやっているところはあります。原子力委員は入らなくてもやっても一向に構わないわけです。

ここで最初に申し上げた趣旨は、委員の互選ということで申し上げた趣旨は、原子力委員は入らないで懇談会として委員会に物申すという運営でよろしいのではということです。

では、約束した時間がきましたので、結論なしでございますけれども、大変貴重な御意見を頂いたと思います。十分にご意見を踏まえて整理をして、こういうことをお願いするということを当然のことながらお願いするということを明確にして次の会合を開いていきたいと思います。

皆さんからやめろという御意見はなかったというふうに思っておりまして、そのことだけは大変ありがたかったと思います。

本当に長い間おつき合い頂きましたことを、形式的には一応今日で切れるということを前提にしていますが、原子力委員会を代表して心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、今日はこれで終わります。